

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

東京都北区立滝野川第二小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	ひらがなの習得や音読は全体的によくできている。しかし、文章題などの読解に大きな個人差が見られる。語彙が少なく、文章から登場人物の気持ちを想像したり、場面を把握することに課題がみられる。読書活動を通して、語彙を増やしたり、「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方などの基本的な書く指導を充実する必要がある。	読み聞かせを聞いたり、物語などを読んだりして内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動を行う。また、学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明するなどの活動を行い、読みを広げていく。更に、身近なことや経験したことなどから話題を決め、日記に取り組む。	授業では、「話す」「聞く」活動も多く取り入れていくとともに、朝の会や帰りの会等でもテーマを決めて、話す活動を取り入れる。また、短時間で短い文章を書く機会を取り入れ、書くことへの抵抗感をなくしていく。さらに、伝えたい事柄を自由に話し、自由に書けるような活動を多く取り入れていく。
2年	全体的にできているが、漢字を書く力が他に比べると少し弱い。話を聞き取ることに個人差が見られる。話の聞き方名人を利用して大切な言葉を聞き逃さないように繰り返し指導する。朝の会で行う日直のスピーチの応答が効果を表している。	漢字では、書き順をしっかりと覚えて積み重ねられるようにする。漢字を使用した言葉集めで全体の語彙力を増やす。話し方、聞き方名人を繰り返し活用する。	新出漢字は毎日2文字ずつ丁寧に学習し、家庭学習で反復し、小テストで確認を行う。ノートを2冊用意して、様々な方法で繰り返したくさん練習する。習った漢字を使用して文を書く力を付ける。
3年	基礎、活用を問わず、「言語事項」「情報の扱い」「話す・聞く」「書く」「読む」全ての領域において大きな課題がある。まずは、言語環境を整える。そのために、話を「聞く」ことから始める必要がある。また、日常的に書く活動を取り入れる。	話し方・聞き方名人を見つけて、紹介したり、スピーチ内容を精選して、聞く話す力を付ける。また、相手に伝わる文章を書くことができるよう、作文メモや文章構成シートなどを活用し、順序よく文章を書かせる機会を十分に与える。	読み取ったことをもとに自分の考えを深め、それを文章や言葉で表現する力を身に付けさせる。国語の時間以外でも、順序よく文章を書かせる場を十分に設定する。朝学習や週末の日記の宿題等の時間を活用し、表現力を向上させる。
4年	書く活動を充実させるためには、語彙や言葉の意味などの知識を増やすことと、それらを活用するための技術を高める。国語の時間のみならず、各教科においても言語活動を充実させ、言語活用能力を高める。	漢字などの既習事項の習熟はできているが、文章にするための技術として、文章構成を習得させる。文章を読み取る際にも文章構成を意識して読み取る。話を聞くことにも課題が見られるため、メモをとりながら話を聞くように指導し、聞き取った内容が正しいか確認する。	百マス作文や日記、学習感想など日常的に書く活動を取り入れ、評価し意欲を高める。また、NIE活動などで多様な文章に触れる機会を設ける。朝学習の時間を利用し、読書や漢字ミニテストなどで言語の習熟をめざす。
5年	文章を書いたり読んだりすることを習慣として身に付けさせることが課題である。文章に触れる機会を増やし、理由や事例を明確にしなが、筋道を立てて自分の考えを述べるような活動を通して、感じたことや考えたことを書くことに慣れさせていく必要がある。	文や文章の中で漢字や仮名を適切に使い分けたり、送り仮名に注意して正しく書いたりできるような習慣を身に付けさせる。説明や解説の文章を比較して読むことや事実と意見を区別して書くことなど、様々な文章に触れながら読み取り、記述する機会を増やしていく。	漢字のミニテストを定期的に行うことや毎日のミニ日記を実施することで、基礎的な漢字の習得や文章を正しく書く力を付けていく。NIE活動などで新聞を読み取り、文章の内容や構造を捉え、自分の考えをまとめて記述する機会を取り入れ、表現力を高めていく。
6年	児童の主体性を活かした発展的な学習を実現するためには、国語科の授業で学ぶことだけに留まらず、他教科において話す、聞く、書く、読む力をそれぞれ活用する場面を意図的に設定することが必要である。カリキュラムマネジメントの視点からの授業改善に課題がある。	総合的な学習の時間におけるアンケートやインタビューの計画・実施、情報や資料の整理・分析、プレゼンテーション資料の作成・発表などの活動に合わせて、その活動に生かすことができる国語科の学習を実施することで、必要感を感じながらより主体的に国語科の学習に取り組めるようにする。	収集した情報の整理・分析を行う際には、思考ツールを活用し、比較、分類、関係付けなど、様々な思考方法を身に付けることができるようにする。プレゼンテーションを行う際には、話し方・聞き方のポイントを提示したり、手本となる発表を見せたりすることで、表現力を高められるようにする。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社会）

東京都北区立滝野川第二小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	自分たちの住む町について調べるために方位やそれぞれの場所の特徴について調べてきたことで、地図に興味をもって取り組もうとする姿勢が見えてきた。また、北区の学習では、北区の環境や鉄道・商業地域・有名な場所などを学習してきたが、地図の読み取りの理解が不十分である。	様々な施設や工場・博物館などを見学する機会をもって、その体験を新聞やリーフレットにまとめることで、身近なものとしてとらえることができるようにする。地図の見方については、具体的な体験などもふまえ随時学習する。	身近な生活と地域の人たちとの関わりを考え、仕事に対する思いや工夫について知り、将来の自分の姿を考えたり、想像したりすることができるようにする。また、方位・地図記号、都道府県クイズやカルタをしながら楽しんで考えられるようにする。いろいろな地図を見て、方位や地形・環境について想像する力を身に付ける。
4年	自分たちの生活と関わりが深い「水」や「ごみ」について、働く人や施設についての学習を通して、関心を高め、これまでとは違った見方ができるようになってきた。しかし、グラフや資料から情報を読み取り、思考できる児童はまだ少ない。現状の指導では社会的な事象への関心は引き出せているが、児童の思考力・判断力・表現力を引き出す時間は十分にとれていない。	資料を読みとり、関連付けて検討する時間を十分に確保する。その際、思考ツールの活用も検討する。できる限り社会科見学の機会を作ったり、身近な事象を自分で調べる機会を作ったりして、実感を伴った理解ができるようにする。	地図や資料の読み方、都道府県のミニテストを定期的に行い、既習の内容を確実に身に付けられるようにする。単元のまとめの時には、新聞やリーフレットなどにまとめ、学習したことを整理し、表現していく力も身につけさせていく。
5年	基礎的な資料を読み取り、情報を適切に調べまとめる力に個人差があり課題である。その上で、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力を身に付けさせる必要がある。また、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養えるようにする。	社会生活との関連を意識し、意欲的に調べたり考えたりできるように資料を提示する。資料を通して、気付いたことや考えたことを表現する時間を十分に確保する。疑問に感じることや他の資料との関連などを思考し、判断できるように話し合う時間を多く取り入れる。	地図帳や統計などの基礎的な資料を生かし、適切に情報を集め、読み取っていく技能を身に付けられるようにする。また、社会に見られる課題を把握して自分たちにできることを思考したり、社会への関わり方について、資料を用いて説明したりする力を養っていく。
6年	教科書に載っている資料を中心に扱いつつ授業を進めているため、児童が身近に感じられない内容や自分事として捉えにくい内容もあると考えられる。そのような単元では、児童が捉えやすい資料や補足資料を十分に活用していくことが必要であると考えられる。	デジタル教科書、書籍、インターネットなどの複数の情報から、児童が興味をもつ読み取りに適した資料を探し、積極的に活用する。授業では資料をじっくりと読んだり、資料同士を比較したりする場面を十分に取り入れ、学習内容を多面的・多角的に捉えられるようにする。	資料相互の関係性等を思考する際には、基礎・基本的な知識・技能も必要となるため、重要語句のふり返りや資料から読み取る力を付ける短時間学習を授業内に取り入れる。社会科と結び付けて考えられる他教科の内容についても、復習ができるようにする。

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	具体物の操作・式・数図・言葉などの関連を丁寧に扱うことが大切である。特にブロックの操作は、出したり、しまったり時間に要するため、○やチェックなどを活用することも取り入れる。個々の児童のつまずきを読み取り、的確な支援をしていくことが必要である。	デジタル教科書や書画カメラを適宜用いて、視覚的に理解を定着させていく。問題解決型の学習では、意欲的に取り組めるよう、児童の興味をもつような題材を用意して、授業の段階が分かるように丁寧に指導する場面と、自力解決ができるように具体物を使ってバランスよく学習を行っていく。	たしざん、ひきざんの意味理解をさらに高めるように文章問題を作成する時間を増やしていく。問題の意味を捉えやすくするために、絵を描いたり、具体物を活用して活動させる。
2年	時計の単元は取り扱い時数が少ないが、具体物を操作して秒、分、時間の関係を理解し普段の生活に生かすことができるようにする必要がある。個々の児童のつまずきを理解し個に応じた指導をする必要がある。	時計、かさ、長さ、形は具体物を用いて、実際の感覚を養う。文章問題では、問題を読み取れるように大切な場所に線を引いたり問題場面を想像したりする。多様な練習問題を用意し、繰り返し学習する。	朝学習を利用し、発展や補充問題に取り組む。授業に遅れが見られる児童には放課後学習で個別に指導する。長さや時間では、普段の生活で活かせるように授業中に話し合ったり活用の練習をしたりする。
3年	概ね基礎・基本の定着ができていますが、習熟には個人差が大きく、個別指導が必要な児童が多い。特に、自分の考えを言葉や文章で表すことについては課題がある。基礎・基本が十分に身に付いている児童については、より発展的な学習を行うことが求められる。	児童の習熟度の合わせて、個に応じた指導を行う。授業の中では、自分の考えをノートに書いたり、発表したりする機会を十分に設けるとともに、図や式、言葉など、様々な手段で考えたことを表すように指導を行うことで、表現力を身に付けることができるようにしていく。	習熟度別コースにおいて、基礎コースでは、教科書の問題の解決に十分な時間をかける。また、学習用PCを活用してドリル学習を行い、確実に計算力や思考力を定着させることができるようにする。発展コースでは、思考力を高める問題に取り組ませ、応用力を身に付けさせる。
4年	習熟度は高く、基礎・基本は定着している。グラフなどデータの読み取りに課題が見られるため、これまでの学習の振り返りなどレディネスチェックをし、課題を見いだす。少人数学習などを活用し、個の実態に応じて基礎的な学習を習熟させる必要がある。	習熟度別学習をする。活用問題に取り組む児童には理論立てて説明をするなど言語活動や表現活動を充実させる。基礎・基本の定着をめざす児童には、既習事項を確認するためのミニテストなどを行い、スモールステップで個別最適な学習を促す。	レディネスチェックで課題が見られた児童には、朝学習や放課後学習などで個別に対応する。九九などの反復練習や百マス計算など速く正確に答えが出せるようにする。学習用PCで個別最適な学習に取り組めるように課題を出し、発展的な学習を促す。
5年	個人差に対応した指導の工夫をすることが課題である。適応問題などで着実に「知識・技能」を身に付けさせる。全体的に算数を得意とする児童が多いため、日常生活から問題を発見し、解決する過程を通して統合、発展的な思考を高めていく必要がある。	問題に出会ったときに、既習事項の中で使えるものがないか、どのような手順で取り組むのかという、解決の見通しをもつ時間を十分に確保する。具体物や半具体物の操作や、日常生活の中の数学的事象を調べる活動を取り入れ、豊かな量感を養う。	補充として、ミニテストなどを定期的に行ったり、学習用PCのドリルを活用して基礎基本を確実に身に付けさせる。発展として、非連続テキストを読み取り解決するような問題に多く触れさせたり、日常生活から問題を見出す活動を取り入れる。
6年	主体的に学習に取り組む態度が高いため、授業ではすすんで問題解決をしたいと思える、生活に即した教材や問題場面を扱うことが必要である。また、既習事項を活かしたり、組み合わせて解決したりする発展的な問題にも挑戦する機会を与えたい。	日常生活で算数を使う場面を問題に設定することで、問題を自分事として捉えられるようにし、自力解決の時間を十分に確保する。また、学習したことが身の回りに活かされていることにも触れ、生活に還元しようとする意欲にも繋げたい。	授業では友達との交流や教え合いを積極的に取り入れ、対話的に問題解決ができるようにする。学年末には、6年間で学習した内容を組み合わせて解くような発展問題にも取り組ませ、中学校へ向けて応用力を育むようにする。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理科）

東京都北区立滝野川第二小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	植物や昆虫を身近に育てる活動を通して、その変化に気付き、観察の視点を理解して記録した。しかし、観察物への興味・関心を深められた児童とそうでない児童との差は大きい。身近な植物や昆虫について意識的に働きかけながら、体験を広げていく必要がある。	課題をもって学習に取り組むことができるように、対象物の「どこに注目するのか」「なぜ」「どうして」などの疑問を明確にして授業を展開する。観察カードやノートには、自分の見方や考えを書かせることで、「主体的に学ぶ態度」を身に付けさせる。	身近な自然や生き物に目を向けさせるために、図鑑やインターネット、動画、友達の話などを紹介しながら、理解を深めていく。また、調べたことを自分でまとめたり、クイズを出したりして発表する機会をもつことで、児童相互で共通理解できるようにする。
4年	「昆虫の体のつくり」や「昆虫の育ち方」などの「生命・地球」領域の内容では、総合的な学習の時間を活用した実体験を元に、知識の定着がみられる。しかし、「音の性質」「磁石の性質」「物の重さ」など「物質・エネルギー」領域は、知識の定着が見られない。実験や観察などの体験活動が必要である。	「物質・エネルギー」の領域では、予想を立て、実験・観察をし、結果を基に考察する。実体験をすることによって知識のみならず、思考を伴って理解できる。教科書などで基本的な用語をおさえて知識の定着を促す。	総合的な学習の時間や自主学習などで興味関心をもって調べられるようにインターネットや映像教材などを提示する。また、知識・技能を定着させるために、学習用PCを用いて課題を出し、個々の進度に合わせて進められるようにする。
5年	実験、観察には興味をもって取り組むが、その結果から考察し、結論づけることを苦手とする児童が多い。また、結論としての知識・技能も十分に身に付いていない。問題解決の過程の中でも、考察、結論の時間を十分に確保する必要がある。	実験、観察の時間を十分に確保するとともに、結果の読み取り、考察、結論という問題解決の過程を大切にする。特に、考察、結論の時間を十分にとり、言語として理解し、知識化できるようにする。時には、結論づけてからもう一度事象に立ち戻って理解を深められるようにする。	補充として、ミニテストなどを定期的に行ったり、学習用PCのドリルを活用して基礎基本を確実に身に付けさせる。発展として、クイズづくりや理科的な作品作りをして、主体的に学ぶ態度を身に付けさせる。
6年	植物に関する単元の学習は、天候や環境に左右されやすく、実験が実施できなかったり、結果にばらつきが生じたりしてしまうことがある。その際に、児童が誤った解釈をしたり、混乱してしまったりしないような対策を考える必要がある。また、実験で用いた植物以外も知る機会が必要である。	デジタル教科書やインターネット上の動画教材、理科教材のホームページ等を補完的に活用する。正確に実験ができなかった物の結果を確認したり、実験で用いた植物以外の植物における実験結果を知ったりすることで、生物分野における共通性・多様性を見方を養うことができるようにする。	「主体的に学習に取り組む態度」が高いため、関心を高められる事象提示を行い、一人一人が課題意識をもって学習に取り組めるようにする。また、学習内容が生活に活かされている場面を紹介するなどして、実感を伴った理解につながるようにする。